

平成 30 年度第 1 回国民健康保険運営協議会 議事概要

日 時：平成 30 年 12 月 17 日(月) 13：30～15：45

場 所：和歌山県民文化会館 402 会議室

出席委員：9 名

【被保険者代表委員】

森川委員、林委員、高垣委員

【保険医又は保険薬剤師代表委員】

中西委員、江口委員

【公益代表委員】

波床委員、片山委員、水城委員

【被用者保険等保険者代表】

谷口委員

【議事概要】

○会長等選出について

- ・波床委員が会長に選出された。
- ・片山委員が会長代理に指名された。

○議事(1)平成 30 年度の医療費と保険給付費の推移について

- ・資料 1 に基づき事務局から説明。
⇒保険給付費等交付金（普通交付金）の交付額見込について報告し、概ね当初の見込みどおりで推移している旨、了承を得る。
⇒今後、次回運営協議会までの実績値の報告を行う。

○議事(2)和歌山県国保運営方針記載事項の取組状況について

○議事(3)全国国保運営方針との比較について

- ・資料 1、資料 2 及び資料 4 に基づき、事務局より説明。
⇒標準化、共同化していく事項は多岐にわたるため、作業部会及び連携会議での議論を経たものについて、再度報告を受けることとする。

○議事(4)平成 31 年度事業費納付金の算定スケジュールについて

- ・資料 3 に基づき、事務局より説明。
⇒平成 31 年度の事業費納付金の算定方法について、政令記載の内容や所得係数等の毎年度変動する要因を除いて、平成 30 年度の算定方法を踏襲することについて了承。
⇒今後は、次回運営協議会において、本係数による算定結果を報告する。

【質疑事項（議題 1 関係）】

【Q】保険給付費については、事務局が当初見込んでいた範囲内ということか。

【A】概ね見込んでいた範囲内で推移している。

【Q】26 頁前後に平成 29 年度と平成 30 年度の比較が 4 区分でなされている。合計欄では▲2.3%とされており、こちらはこういったことを表しているか。

【A】総額で比較した場合、2.3%減少している。国保加入者が減少している一方、一人当たり保険給付費が増加している。トータルで見た場合、減少しているように見えるが、一人当たりで見ると増加している、そういった傾向が確認できる資料である。

【Q】被保険者数実績比較で 70 歳未満一般が▲5.8%、未就学児が▲8.3あたりは、少子高齢化等の影響が出ているということか。

【A】それもある。また、70 歳以上の方が、今までは 70 歳未満のグループに入っていたが、70 歳以上一般もしくは現役並みに移っており、ご質問のとおり少子高齢化、人口減少が影響していると考えている。

【Q】人口動態等の客観的な予測は行えているか。

【A】人口動態の中で、国保加入者がどれくらいになるのか、また、加入者の所得がどれくらいになるのかによって、国保の加入者がどれくらいの負担が可能か検討しなければならないと事務局でも考えている。人口動態等の傾向は国勢調査等から平成 30 年度も見受けられ、平成 31 年度以降も同様に傾向は予想できると考えている。

【Q】昨年度策定された国保運営方針では、医療費総額が平成 32 年度をピーク落ちていくと推計されているが、現状と国保運営方針のピークが近いという理解で良いか。

【A】一人当たり医療費の伸びについて、策定時に使用した足下データ（平成 27 年度、28 年度）が高めに出ていた。また、平成 29 年度、30 年度とその部分が落ち着いてきたこともあり、その辺りの影響を次回運営方針の改定時には見直す必要がある。

【Q】高額医療費はどういったものがあつたか。

【A】具体的に申し上げますとオプジーボなどの高額な医薬品など、今後も出てくるとは思うが、それを見込むことは難しく、留意していく必要があると考えている。

【Q】70 歳以上現役並みは、平成 32 年度を過ぎると多数が後期高齢者へ移るということか。

【A】委員見込みのとおりです。

【Q】就労年齢が伸びると 70 歳以上の現役並みも増えてくる可能性がありますね。

【A】就労所得もそうだが、一時所得も含まれることから、就労に加えて他収入が増えれば 70 歳以上現役並みも増える可能性はある。

【質疑事項（議題 2、3 関係）】

なし

【質疑事項（議題 4 関係）】

【Q】資料 3 について、平成 30 年度の算定について、医療費を反映させるために医療費指数反映係数 α を 1 とし、所得係数 β を 0.77 とした…こちらは 0.76 ではなかったか。

【A】0.77。